

地域活動へ理解を

奥本さん 地域の見守り活動のために福祉マップを作ろうとしても、本人の理解がないと地図への記載ができません。プライバシーの問題などを克服するいい方法はないでしょうか。

市長 善意で行っていることでも、迷惑と感じてしまう方もいます。まずは、地域の中で互いに相談しやすい環境をつくっていくのが一つの方法ではないでしょうか。



奥本さん

後藤さん 町内会役員や民生委員・児童委員などとして活動してきました。その時に行政の指導や支援が少ないと感じました。地域団体だけで活動すると「誰が決めたんだ」となることも多いのです。

市長 行政が地域の活動内容をきつちりと決めるのは難しい。これから行政がやるべ

きことの一つは、まちづくりセンターなどの地域の方が集まる拠点をしっかりとつくっていくこと。地域活動では、皆さんが協力し合うことは欠かせませんから「みんなと一緒にやってみませんか」と、地域の方を巻き込んでいくこともいいかもしれません。



上田市長

担い手が不足しています

奥本さん 地域活動の担い手がいないですね。町内会の

班長を当番制にするのも抵抗があるようでした。



後藤さん

後藤さん 町内会役員などの仕事は大変なこともありませんが、地域の皆さんの笑顔を見ているとやってよかったです。感じます。

市長 地域の担い手不足は難しい問題ですが、地域住民が顔を合わせて交流を深め、互いに手を挙げやすい環境をつくっていくことが大切だと思います。

交流で地域への愛着を

小林さん 私の住む地域では、運動会など世代を超えた交流ができる行事がたくさんあり活気があります。しかし、子どもたちの多くは核家族化により、さまざまな年齢の方や障がいのある方などと触れ合う機会が少ないのです。地域や学校で交流の機会をつくれなにかと思います。そうすることで、地域への愛着も生まれるのではないのでしょうか。



小林さん

市長 世代を超えたつながりは大切です。地域に居る時間が長いのは高齢者や専業主婦の方、そして子どもたちです。小中学生くらいの子どもたちを、いかに地域のメンバーとして育て、役割を与えるかが大切です。地域の雪かきを手伝わせても良い。自然と地域の方との交流も生まれ、直接感謝されることで、

学校では習わないことが身に付いて、大きく育っていくと思います。



「ふらっとホーム」のお問い合わせ先
市長政策室広報部市民の声を聞く課
☎ 211-2045 FAX 218-5165

この記事のお問い合わせ先
北区市民部総務企画課広聴係
☎ 757-2503 FAX 757-2401

語ろう の北区

SAPPORO

とホーム 2012 in 北区～

札幌を住みよいまちにするためにじつ「ふらっとホーム」。毎年各区で行われて記念すべき100回目となった北区でと上田市長が将来の札幌について話し年12月18日に札幌サンプラザで行われ「ホーム」の様子を紹介します。